

# 年表 マッケラー・スミス・アンド・ジョーダン活字鋳造所は活字サイズの標準化・体系化の過程とどうかかわったか

## フランスにおける活字サイズの体系化の提案

1694-95  
セバスチャン・トルーシェ (1657-1729) が活字のサイズの標準的な単位系を考案。

1737  
ピエール・シモン・フルニエ (1712-68) が『比例対照表』を公表し、活字サイズの比例関係の標準を提唱。

1764-66  
フルニエは『一般比例対照表』を発表し、基準寸法の 1/6 をシセロ、その 1/12 をポイントとする分割法を提唱した。

1783頃  
フランソワーズ・アンブロワーズ・ディード (1730-1804) がフルニエのシステムを公式の pied de roi 基準に改める。これがディード・ポイントとなる。

1785-86  
フランスに滞在中のベンジャミン・フランクリン (1706-90) が孫のベンジャミン・フランクリン・パーチ (1769-98) が活字鋳造を合衆国で行えるよう、フランソワーズ・アンブロワーズ・ディードのもとで技術を見習わせると共に、母型や活字鋳造用の器材一式をピエール・シモン・フルニエから購入して、帰国前に合衆国に発送した。器材は無事フィラデルフィアに到着し、フランクリン活字鋳造所が始動した。

1806  
ベンジャミン・フランクリンの死後、ベンジャミン・フランクリン・パーチが鋳造所を引き継いだ。成功せず鋳造所は閉じられた。フランスから購入された活字鋳造用の器材はデュアン氏の所有となる。その後、器材はデュアン氏からビニー・アンド・ロナルドソンに売却される。

フルニエから活字鋳造器材が導入されたことが、後にビニー・アンド・ロナルドソンから受け継がれる MS&J のパイカ (ジョンソン・パイカ) とフルニエ・ポイントでのパイカの大きさの近似の原因と推測される。ただし、誤差の混入のためか、両者は厳密に一致はしない。また、フルニエ・ポイントの大きさ自身も、ベルギー等で慣用されていたものが知られてはいるが、必ずしも歴史的に正しい大きさは明確となっていない。

## 参考文献

Boag, Andrew. "Typographic measurement: a chronology", *Typography papers*, no. 1, 1996, The Department of Typography and Graphic Communication, The University of Reading, Reading 1996.

Bruce's Son & Company, *Specimen of Printing Types*, incl. Theo. L. DeVinne's "The Invention of Printing", New York 1878.

Fournier, Pierre Simon, *The Manuel Typographique of Pierre-Simon Fournier le jeune*, Vols. I-III, Ed. by James Mosley, Darmstadt 1995.

Fournier, Pierre Simon. *Modèles des Caractères de l'Imprimerie*, including James Mosley's introduction, Eugrammia Press, London 1965.

Fournier, Pierre Simon. *Manuel Typographique*, Vols. I & II, Fournier & Barbou, Paris 1764-1766.

Hansard, T. C. *Typographia*, Baldwin, Cradock, and Joy, London 1825.

Hopkins, Richard L. *Origin of The American Point System*, Hill & Dale Private Press, Terra Alta 1976.

Hutt, Allen. *Fournier, the compleat typographer*, Rowman and Littlefield, Totowa, NJ 1972.

Jones, Thomas Roy, *Printing in America*, The Newcomen Society of England, American Branch, New York 1948.

MacKellar Smiths & Jordan. *One Hundred Years*, Philadelphia 1896.

Mackellar, Thomas. *The American Printer: A Manual of Typography*, Mackellar Smiths & Jordan, Philadelphia 1874.

Mosley, James. "French Academicians and Modern Typography: Designing New Types in the 1690s", *Typography papers*, no. 2, 1997, The Department of Typography and Graphic Communication, The University of Reading, Reading 1997.

Ovink, G. Willem. "From Fournier to metric, and from lead to film", *Quaerendo*, Volume IX 2 & 4, Theatrum Orbis Terrarum Ltd., Amsterdam 1979.

調査・年表作成 山本太郎  
©2003 Taro Yamamoto, All rights reserved.

## 米英における活字サイズの体系化の提案



Dr. Thomas Mackellar



John F. Smith

1822  
ブルース活字鋳造所は等比級数に基づく合理的な活字サイズのシステムを考案する。

1824  
スコットランドのジェイムズ・ファーガソンが 1/12 インチをノンパレルのサイズとするシステムを考案する。

1841  
パウワー兄弟活字鋳造所は 1 インチを 6 パイカとし、16 ポイントを 1 パイカとするシステムを考案する。

1857  
シャンクス特活字鋳造所は 0.1667 インチを 1 パイカとし、20 ポイントを 1 パイカ、10 ポイントをノンパレルとするシステムを考案する。

## マッケラー・スミス・アンド・ジョーダンの歴史

1735  
クリストファー・サウアーがペンシルバニア州ジャーマンズタウンにドイツ語活字の鋳造所を開設する。後に、サウアーの鋳造所はビニー・アンド・ロナルドソン活字鋳造所に吸収される。

Established, 1796.

MACKELLAR, SMITHS & JORDAN,  
*Letter Founders,*  
Nos. 606-614 Sansom Street, Philadelphia.



Richard Smith

1787  
オランダの活字鋳造者アダム・G・マッパがニューヨークでオランダ語とドイツ語の書体、ローマン及び東洋諸語の活字を製造し始める。後にマッパの活字資材はビニー・アンド・ロナルドソンの手に渡る。

1793  
アーチボルド・ビニーがアメリカ合衆国に移住する。ビニーはスコットランドのエジンバラの生まれだった。

1796  
アーチボルド・ビニーは同郷のジェイムズ・ロナルドソンとフィラデルフィアで活字鋳造を始める。ビニーは機械製作の技術と工具を持っており、ロナルドソンは資本を持ち、ビスケット工場を営んでいたが、その工場は火災で焼失していた。両者の技術と資本のめぐり合わせから、ビニー・アンド・ロナルドソン活字鋳造所が生まれた。



Peter A. Jordan

1823  
リチャード・ロナルドソンが創業者のビニーとロナルドソン引退後の経営を引き継ぐ。

1833  
ローレンス・ジョンソンとジョージ・F・スミスがビニー・アンド・ロナルドソンの経営を引き継ぐ。

1843  
ジョージ・F・スミスが引退する。

1845  
ローレンス・ジョンソンは、それまで一緒に働いていたトーマス・マッケラー、ジョン・F・スミス、リチャード・スミスと共同経営者とした。

1860  
ローレンス・ジョンソンが死去。ピーター・A・ジョーダンが共同経営者に加わって、マッケラー・スミス・アンド・ジョーダン (MS&J) となる。

1877-79頃  
MS&J がクリーブランド活字鋳造所と共同でパウワー兄弟と同様のシステムの開発を行う。

1877  
マダー・ルース社のネルソン・C・ホークスが提唱したシステムの最初の活字が制作される。(当初、基準となるパイカを当初は厳密に 1 インチの 1/6 としていた。12 ポイントを 1 ポイントとする。これがアメリカン・ポイント・システムとなる)。

1879  
ホークスのシステムが *The Chicago Specimen* 誌上で公表される (タイトルは、「The American System of Interchangeable Type Bodies」)

1884  
ピーター・A・ジョーダンが死去。

1882  
ネルソン・C・ホークスがマダー・ルース社から離れ、独自にアメリカン・ポイント・システムの普及活動を始める。以後、1890年までにアメリカン・ポイント・システムが全米で急速に普及した。

1885  
MS&J が同社のパイカ (いわゆるジョンソン・パイカ) を、83 パイカは 35 センチメートルに等しいと定義する。  
ウィリアム・ブラッシャー・マッケラー、G・フレデリック・ジョーダンとカール・フリードリック・フックが共同経営者に加わって、マッケラー・スミス・アンド・ジョーダン株式会社が設立される。

1886  
全米活字鋳造者協会の第五回会合が 9 月 16 日にナイアガラ瀑布で開催され、ジョンソン・パイカを標準的なパイカの大きさとする決定がなされる。(1890年、アメリカ印刷者連合もアメリカン・ポイント・システムと MS&J のパイカ及びメートル制との関係を現状のまま確認した)。

1892  
アメリカン・タイプ・ファウンダーズ (ATF) が事業を開始する。MS&J は ATF に吸収され、主要な支社のひとつとなる。